

3

日常生活圏域ニーズ調査の結果から見える現状

本町では、「桂川町第5期高齢者福祉計画」の策定

にあたり、町内にお住まいの高齢者の介護や福祉に関する生活状況や意識といった実態を把握し、その結果を現状分析・計画策定の基礎資料とすることを目的に日常生活圏域ニーズ調査を実施しました。本調査では680人の方に郵送で配布し、589人の方から回答がありました。回収率は86・6%でこのような調査としては非常に高い回収率での回答が得られました。ご協力くださった町民の方々にお礼を申し上げます。

今回行った日常生活圏域ニーズ調査では、介護予防事業において「二次予防が必要な高齢者」を把握するための基本チェックリスト25項目が含まれています。この結果に基づいて対象者は全体として二次予防が必要な高齢者（特定・全体）、運動

機能で二次予防が必要な高齢者（特定・運動）、栄養で二次予防が必要な高齢者（特定・栄養改善）、口腔機能で二次予防が必要な高齢者（特定・口腔）、閉じこもりがちなため二次予防が必要な高齢者（閉じこもり）、認知症のリスクがあり二次予防が必要な高齢者（特定・認知症）、うつつのリスクがあり二次予防が必要な高齢者（特定・うつ）のように判定されます。この結果を介護・介助の必要性から見たものが下の表です。

「介護が必要ない」と回答した高齢者では、「認知症のリスク」が49・1%で最も高く、次いで「閉じこもり」40・0%、「うつつのリスク」18・3%となっています。「介護が必要だが受けていない」と回答した高齢者では、「栄養改善」を除いていずれの項目でも該当者の割合が高くなっています。最も高いの

は「閉じこもり」の85・7%で、次いで「認知症のリスク」71・4%、「うつつのリスク」47・6%、「全体的に該当」42・9%となっています。「介護を受けている」と回答した高齢者では、さらに各項目とも該当者の割合が増加しています。最も高いのは「閉じこもり」の94・3%で、次いで「認知症のリスク」78・2%、「うつつのリスク」58・6%、「全体的に該当」55・2%、「運動機能で該当」35・6%となっています。

以上の結果から桂川町の高齢者では、「閉じこもり」がちな高齢者が多いことがわかります。最近の研究によると、閉じこもりがちな生活はうつや認知症のリスクになることが示唆されています。したがって、「高齢者がいきいき」としている町を実現するためには、閉じこもり対策の推進が重要になります。

	必要ない			必要だが受けていない			受けている		
	合計	度数	%	合計	度数	%	合計	度数	%
特定・全体	25	438	5.7%	18	42	42.9%	48	87	55.2%
特定・運動	16	438	3.7%	7	42	16.7%	31	87	35.6%
特定・栄養改善	7	435	1.6%	0	41	0.0%	6	85	7.1%
特定・口腔	19	438	4.3%	10	42	23.8%	23	87	26.4%
閉じこもり	175	438	40.0%	36	42	85.7%	82	87	94.3%
特定・認知症	215	438	49.1%	30	42	71.4%	68	87	78.2%
特定・うつ	80	438	18.3%	20	42	47.6%	51	87	58.6%